

サイエンスカフェの概要について（事後報告）

1. 開催日時：平成31年2月15日（金） 19時～20時45分
2. 開催場所：文部科学省情報ひろばラウンジ（東京都千代田区霞が関3-2-2）
3. 関係団体等：共催：国立環境研究所 社会対話・協働推進オフィス

4. 役割

コーディネーター：中村征樹（大阪大学准教授・日本学術会議連携会員）

ゲスト：林和弘（文部科学省科学技術・学術政策研究所）

高瀬堅吉（自治医科大学大学院医学研究科教授、日本学術会議連携会員、若手アカデミー幹事）

佼成学園高校サイエンス部

5. 概要：

野鳥の生態観測やガンのデータ解析など、近年、科学のさまざまな場面で、ふつうの市民が大きな役割を担うようになってきている。今回のサイエンスカフェでは、市民が科学研究の一翼を担う「シチズンサイエンス」をテーマに、シチズンサイエンスの現状と可能性、そしてその課題について、ゲストと参加者らで話し合った。ゲストには、シチズンサイエンスの国内外の動向に詳しい林氏、日本心理学会でシチズンサイエンスを展開しようとしている高瀬氏、そして高校生ならではの行動力と探求心で科学研究に取り組んでいる佼成学園高校サイエンス部の生徒4名をお招きした。

当日は、シチズンサイエンスが社会的課題の解決を目指すのか、未知のものを探求するロマンが重要なのかといった話題から、プロの研究者がロマンを追求できなくなっている現状のなかで、ピュアな知的好奇心に支えられたシチズンサイエンスにこそ科学の可能性があるのではないかという発言もなされた。また、サイエンス部の高校生たちの発言は、科学へのピュアな思いを実感させられるものだった。ただし、サイエンス部の顧問の先生からは、高校生の研究発表の場でも「この研究はなんの役にたつのか？」という質問が寄せられる現状への懸念が語られた。また、シチズンサイエンスをめぐる倫理的問題にどのように取り組むべきなのかといった話題についてもさまざまな意見がかわされた。そのほか、シチズンサイエンスを支えるインフラなど、シチズンサイエンスをめぐる多様な論点について、参加者を交えて非常に活発な議論が印象的であった。

6. 参加人数：

講演者等：7名

その他の参加者：23名